

Features and Benefits



CommandCenter® Secure Gateway

リリース 6.0

ラリタンの CommandCenter Secure Gateway (CC-SG) は、企業やラボの IT インフラへの安全でシンプルなりモートアクセスと統合管理をアプリケーション、OS そして BIOS レベルといった複数のプラットフォームレベルで提供します。

主な機能

- 安全なシングルサインオン、単一の IP アドレスでラリタンの Dominion® KVM-over-IP スイッチ、Paragon® II アナログ KVM そしてインテリジェント PDU PX シリーズを全て管理可能
- ブレードシステムをはじめとする物理サーバ、仮想マシン、そして ESX/ESXi サーバや VirtualCenter 環境といった VMware™ もシングルポイントからのアクセス
- HP iLO、Dell® DRAC、IBM® RSA、IPMI サービスプロセッサ、RDP、VNC、SSH、Telnet、といったサービスプロセッサ経由でのリモートアクセスと電源管理をサポート
- ラックマウント対応のハードウェアとバーチャルプライアンスの 2 つのモデル
- HTML ベースのアクセスクライアントインタフェースにより、ユーザ側で「お気に入り」「最近のアクセス」も含めた管理画面のカスタマイズが可能。管理対象機器を容易に見
- アクセス権限の管理をはじめ、役割ベースのポリシー集約管理
- スマートフォンやタブレットからのモバイルアクセスを含めた、幅広く柔軟なクライアントを選択可能
- 仮想メディアを Dominion KX II や KX III 経由でサポート
- 詳細なアクティビティレポートを含むロギングの統合と監査証跡

特長	機能	利点
<i>Dominion KX II および KX III サポート</i>	CC-SG は仮想メディアや「ずれないマウス」テクノロジーを提供するラリタンの KVM-over-IP スイッチに接続されたサーバやその他の IT 機器へのアクセスをサポートします。Dominion KX II や KX III については、接続機器の検知、管理、アップグレードなどの管理機能を提供します。	CC-SG は、Dominion KX II と Dominion KX III が混在した環境でもシームレスなアクセス統合管理を実現します。
<i>Dominion SX サポート</i>	CC-SG は Dominion SX コンソールサーバ経由でシリアル機器へのアクセスもサポートします。	複数の Dominion SX や他のラリタン製アクセス機器が混在していても、統合管理が可能です。

特長	機能	利点
<p>仮想化： VMware の統合</p>	<p>CC-SG に仮想化環境を追加することで、CC-SG から仮想マシン、仮想ホスト、制御システムに接続できるようになりました。新しい仮想化機能には、仮想化環境へのシングルサインオンアクセスの簡単なセットアップ、仮想マシンと仮想ホストに仮想電源コマンドを発行する機能、シングルクリック接続によるトポロジビューが含まれます。CC-SG を VMware™環境と統合することで、VirtualCenter ソフトウェア、ESX/ESXi サーバ、および VMotion™機能との接続機能などをサポートできます。</p>	<p>物理サーバと仮想サーバの両方の集約型アクセス、電源制御、監査。</p> <p>別の仮想ホストに移動した場合でも、仮想マシンとの接続が常に維持されます。</p>
<p>Dominion KX II や KX III 経由でのブレードサーバへのアクセスのサポート</p>	<p>CC-SG はラリタンの KVM スイッチ Dominion KX II や KX III に接続されたブレードサーバへのアクセスをサポートします。Cisco、Dell、HP、IBM のほとんどのブレードがサポート対象になります。</p>	<p>接続されたすべてのノードにシングルクライアントからアクセスできます。ブレードサーバ、ノンブレードだけでなく、IP ツール、サービスプロセッサ、PDU、仮想システムや、その他ラリタンの KVM ソリューションに接続された機種をサポートします。</p>
<p>ラリタンの Dominion® PX インテリジェント PDU の統合</p>	<p>CC-SG は、IP ネットワーク上の Dominion PX インテリジェント電源タップを検知、追加できるようになりました。CC-SG はファームウェアのバージョン、シリアル番号、PX で使用できるコンセントの数を自動的に特定します。ネットワーク管理対象デバイスとして CC-SG に追加すると、Dominion PX 管理インタフェースへのシングルサインオンアクセスを提供できるようになります。さらに、Dominion PX のコンセントは、既存の CC-SG ノード(サーバ)の構成と関連付けに使用できます。</p> <p>注： パワーCIM または電源ケーブルによる Dominion デバイスとの物理接続を利用した、PX と CC-SG の統合オプションは、サポートされ、現在も利用できます。</p> <p>ラリタンの電源管理ソフトウェア Power IQ 経由で、CC-SG からラリタンの PX2 シリーズの PDU も統合管理できます。</p>	<p>CC-SG は、さまざまな方法でのアクセスと管理をサポートしています。</p> <p>KVM やシリアルスイッチから独立して Dominion PX を制御できます。</p>

特長	機能	利点
<p>インバンドアプリケーションとエンベッド型サービスプロセッサへのアクセス</p>	<p>インバンドシリアルコンソールインタフェースとして TELNET と SSH がサポートされるようになりました。</p> <p>最もよく使用されているインバンドコンソールインタフェースの 1 つである RDP を、コンソール、リモートユーザのいずれかのモードで使用できます。RDP コンソールでは、IT 管理者はセッション終了までサーバ上の唯一の RDP ユーザになることができます。</p> <p>サービスアカウントは、MD5 方式で二重に暗号化されたパスワードを使用して作成し、CC-SG に格納できます。サービスアカウントは、全てのインバンドインタフェースでリモートまたはローカル認証に利用できます。サービスアカウントパスワードの変更は、そのサービスアカウントを使用する全ての CC-SG インタフェースに適用されます。</p>	<p>SSH と TELNET プロトコルによるシリアルターゲットへの接続機能。</p> <p>RDP 使用時の柔軟性。</p> <p>パスワード変更の反映に要する構成時間の短縮。</p>
<p>強固なセキュリティ</p>	<p>セキュリティ面でより安全な Linux® ベースのアプライアンスアーキテクチャ採用</p> <p>強力なポリシー管理ツールにより時間、場所、アプリケーション、OS、部門、機能などの幅広いカスタマイズ可能な基準によるアクセスと管理が可能です。</p> <p>128-bit と 256-bit の AES 暗号化で、AES 対応 Dominion デバイス経由でのエンド・トゥ・エンドのノードアクセスが可能。</p> <p>ローカルの認証機能に加えて、LDAP、Active Directory®、RADIUS、TACACS+等の幅広い認証プロトコルをサポート</p> <p>Active Directory からユーザグループをインポート</p> <p>RADIUS サーバの SecureID で 2 ファクタ認証をサポート</p> <p>IP ベースのアクセスコントロールリスト (ACL) による IP アドレスベースでのユーザアクセス制限</p> <p>プロキシモードによるファイアウォールや VPN 経由のセキュアなアクセス</p> <p>強力なパスワードによる認証、SAS70 に準拠したログイン失敗回数やユーザ ID ロックアウトのパラメータ設定</p>	<p>CC-SG はパワフルに強化されたセキュアなアクセスプラットフォームで、大切な企業のリソースを管理する IT 管理者に安心してご利用いただけます。</p>
<p>ネイバーフッド構成</p>	<p>10 台までの CC-SG ユニットによってエンタプライズのアクセスと管理のニーズにあった構成を組むことができます。ひとつのネイバーフッド構成内には同じファームウェアバージョンの CC-SG ハードウェアアプライアンスとバーチャルアプライアンスを混在できます。</p>	<p>IT インフラの拡張にあわせて CC-SG を追加できます。</p> <p>CC-SG の間のリソースの伝達性能が強化されます。</p>



特長	機能	利点
ハードウェアアプライアンスのクラスタ構成	<p>“クラスタ”構成はプライマリとセカンダリ CC-SG を異なる部門や地理的ロケーションに導入することによって冗長性を提供します。</p> <p>CC-SG のバーチャルアプライアンスをクラスタ構成に入れることは出来ません。バーチャルアプライアンスのフェイルオーバーのためには VMware High Availability 機能をサポートします。</p>	<p>プライマリユニットに問題があったときも、簡単にシームレスに障害回避が可能です。</p>
CC-SG への Web ブラウザアクセス	<p>CC-SG は IP アドレスでもホスト名でも Web ブラウザへのアクセスをサポートします。Web ブラウザインターフェイス経由でのシングルサインオンはユーザ名とパスワードの自動入力を許可していてセッション ID のような追加入力を必要としないアプリケーションでは可能です。</p> <p>たとえば Dominion PX の Web インターフェイスや Dell RAC4 の管理画面といった Web ブラウザインターフェイスからはシングルサインオンが可能です。</p>	<p>KVM-over-IP スイッチ、内蔵型サービスプロセッサといった Web サーバを備えた機器 Web ベースの IT アプリケーションには集約的で監査されたアクセスを提供します。</p>
Apple スマートフォンやタブレットからのアクセス	<p>CC-SG のモバイル KVM クライアント(MKC)により、モバイルデバイスからアウトオブバンド KVM アクセスと電源コントロールが可能になります。iOS4.0 以上の iPad® / iPhone® をサポートしています。</p> <p>MKC は Dominion KX II と KX III 経由でアウトオブバンド KVM アクセスと、CC-SG の DRAC、iLO、IPMI、RSA、VMware 仮想マシン向け電源インターフェースにより電源コントロールをサポートします。Power IQ®管理下の PDU と ラリタン PX のなどの電源管理もサポートしています。</p>	<p>CC-SG ユーザはスマートフォンやタブレットから手軽に KVM と源コントロール/管理を利用できます。</p> <p>職場や自宅、旅行先からでも IT リソースへの柔軟なアクセス管理を提供します。</p>
監査と監査証跡レポートの強化	<p>CC-SG 管理者は、監査証跡レポートをカテゴリ別にソートできるようになりました。たとえば、管理者は修復のための認証メッセージ、監視のためのセキュリティ メッセージ、または仮想マシン関連アクティビティの追跡のための仮想化メッセージのみを選択して表示したり、タスク、埋め込み、アクセスに関連する監査メッセージを選択して表示できるようになりました。</p>	<p>修復、セキュリティ、デバッグなど、特定用途向けの詳細な監査証跡ソート機能。</p>

特長	機能	利点
<p>リモート監視ツールとキャパシティプランニングツール</p>	<p>CC-SG には、CC-SG のパフォーマンスをリアルタイムに、そして時間の経過を追って監視するためのツールが豊富に用意されています。これらのツールをアクティブにすると、CPU、メモリ、ハードディスクの空き容量などの情報を取り込んだり、表示したりできます。</p> <p>リアルタイムデータキャプチャツールを使用することで、情報をグラフィック表示できるだけでなく、設定したしきい値に基づいて送信される電子メールアラートも作成できます。時系列的なデータ評価ツールを使用した場合は、時間の経過にともなう CC-SG のパフォーマンスの変化をグラフィック表示できます。</p>	<p>セキュアリモート監視ツールをアクティブにすることで、CC-SG ハードウェアのパフォーマンスを監視し、何らかの対策が必要になった場合にアラートを通知できます。</p>
<p>ファームウェアアップグレードプロセスの効率化</p>	<p>Task Manager のアップグレード機能では、同時にアップグレードしたいデバイスの数を指定することができます。さらに、ユーザ側で自動アップグレードタスクの時間ウィンドウを決めることもできます</p> <p>Restart Device を改良し、タスクの自動化が可能になりました。CC-SG の管理者は複数のデバイスを選択して、指定した時間に再起動を実行することが可能です。タスクの完了時には、Upgrade Status レポートが生成され、同時に E メールアラートも自動生成されます。</p>	<p>この機能はデータセンタまたは分散した環境で CC-SG が多数の Dominion を管理している際に特に有効です。また、24 時間 365 日稼働のデータセンタや、インフラのメンテナンスダウンタイムを最小限に留めるために密な監視が必要なときにも非常に有効です。</p>
<p>DRAC6 サポート</p>	<p>CC-SG は Dell リモートアクセスコントローラ (DRAC) へのアクセスも対応します。以下のインターフェース経由でのアクセスが可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Telnet ● SSH ● Web ブラウザ ● IPMI power 	<p>Dell サーバを利用している企業で、DRAC4 や 5 から DRAC6 への移行をしても、CC-SG からのアクセスは問題ありません。</p> <p>特定のサーバに標準的な KVM アクセスが必要、または DRAC 経由で他のサーバにアクセスする際も全てのリソースを一か所から CC-SG 経由で管理できます。</p>
<p>HP iLO、iLO2、iLO3 と iLO4 サポート</p>	<p>CC-SG は iLO プロセッサを搭載した HP のサーバにシングルサインオンのコンソールアクセスでサポートします。さらに、それら HP のサーバに対してリモートからの電源オン・オフ・サイクル及びグレースフルシャットダウンを実施します</p>	<p>CC-SG は iLO が導入されたサーバにも、より生産性の高い環境を提供します。</p>

特長	機能	利点
<p>ノードグループを使ったビューの個別カスタマイズ</p>	<p>あらかじめ定義されたカテゴリによるカスタマイズビューに加えて、あらかじめ定義されたノードグループを使ったカスタマイズビューの作成も可能です。</p> <p>CC-SG の管理者はカスタムビューを全てのシステムユーザと共有することが可能で、加えて、各ユーザがノードグループやデバイスグループを使って各自のカスタマイズビューを作成することができます。</p>	<p>ユーザがアクセスする必要のあるサーバや IT 機器を簡単に見つけることができます。</p> <p>カスタムビューを簡単に作成し、その場で変更を行うことで、CC-SG は IT スタッフの負荷を軽減し生産性を高めます。</p>
<p>仮想メディア</p>	<p>CC-SG は仮想メディアアクセスポリシーのコントロールを可能にします。仮想メディアについては、拒否、管理、ビューのみ、の 3 つのオプションでの権限が付与できます。仮想メディアは CC-SG 配下の Dominion KX II, KX III, KSX II, KX2-101-v2 に仮想メディア用 CIM 経由で接続されたアウトオブバンドノードに関して利用できます。</p>	<p>この機能は再イメージ（新しい OS の適用）、ブート、またはリモートでのデバイスアップグレードを容易にします。</p>
<p>WS-API のサポート</p>	<p>オプションとして WS-API の利用が可能です。</p>	<p>独自にカスタマイズしたクライアントアプリケーションから CC-SG、接続されたノード、そのほかの CC-SG 機能へのアクセスが可能です。</p>
<p>Power IQ がサポートする PDU に接続されたサーバの電源管理</p>	<p>CC-SG のクライアントから離れることなく、Power IQ が管理する複数ベンダーの PDU に接続された CC-SG ノード (Power IQ IT デバイス) の電源管理が可能です。</p>	<p>CC-SG のユーザで Power IQ もご利用の場合、CC-SG を離れることなく IT インフラの電源管理が非常に簡単に行えます。</p> <p>Power IQ が管理するラリタン以外の PDU に接続されたデバイスの管理も可能です。</p>
<p>Power IQ とのデータ同期</p>	<p>CC-SG は Power IQ のデータを引き出すことができ、より容易に、便利に同期を行います。</p>	<p>CC-SG と Power IQ がインフラデータを共有できます。</p> <p>データエントリーの作業を二重に行うことがないため、時間の節約が可能。ノード、インターフェース、デバイス、ポート、その他の情報を同期できます。</p>

特長	機能	利点
データのインポートとエクスポート	<p>CC-SG は、広範囲のインポート・エクスポート機能を備えています。CSV ファイルのインポートが可能になることで、デバイス、ノード、ユーザ、関連デバイスや PDU の構成プロセスが容易になります。以下のファイルがインポート・エクスポートできます：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● カテゴリやエレメントのインポートとエクスポート ● ユーザグループとユーザのインポートとエクスポート ● ノードとインターフェースのインポートとエクスポート ● デバイスとポートのエクスポート ● Power IQ のインポートとエクスポートファイル 	<p>IT インフラのプロファイルをスプレッドシートに保存することで、IT 管理者はデータの扱いが簡単になり、CSV ファイルで保存して CC-SG へのインポートをすることで時間の節約になります。</p> <p>CC-SG にすでにあるデータを利用することも可能です。CC-SG からデータをエクスポートして、マスターファイルの作成や変更を行い、CC-SG にデータを戻したり他のアプリケーションに利用したりすることもできます。</p> <p>CC-SG と Power IQ のあいだでデータの共有もできます。</p>
バーチャル CC-SG 評価版	<p>CC-SG のソフトウェア評価版をご利用頂けます。仮想サーバや PC にインストールできます。この評価版は製品版とは以下の違いがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● サポートするインターフェースは 16 まで ● CC-SG WS-API のオプションは使用できません <p>バーチャル評価版は Raritan.com からのダウンロードしてください。</p>	<p>CC-SG は、ハードウェアアプライアンスを導入しなくても評価が行えるようになりました。VMware Player、ESX/ESXi が搭載された仮想マシンで動かすことができます。</p>
.NET™ クライアントサポート	<p>CC-SG には AKC (Active KVM Client) が搭載されており、Java のかわりにマイクロソフトの .NET テクノロジーを使うことができます。管理者もアクセスクライアントも AKC をサポートします。クライアント PC は Windows XP、Windows Vista®でも Windows 7/8 でも利用できます。</p>	<p>Windows ベースのアーキテクチャを使用したい人は .NET KVM クライアントを選ぶことができます。</p>
Windows 7/8 サポート	<p>CC-SG で Windows 7/8 搭載のターゲット機器へのアクセスをサポートします。Win 7/8 搭載のクライアント PC もまたサポートします。</p>	<p>サーバやクライアントに Win 7/8 を利用している企業でも、現在の CC-SG から簡単にアップグレードできます。そして、CC-SG を新しく導入する際にマイクロソフト OS との互換性を心配する必要はありません。</p>